

# 那須烏山

— No.86 —

2012  
November

11

Public Relations Magazine  
of Nasukarasuyama City

デマンド交通ってなあに?..... 2  
市表彰式・健康講話..... 8  
幼稚園・保育園で運動会盛ん.....14  
市文化祭.....18  
まちの話題.....20  
インフォメーション.....22



おもたいよ～(にこにこ保育園サツマ掘り)



10月1日試験運行開始

乗客を乗せデマンド交通第1便が出發。

# デマンド交通 ってなあに？

## 那須烏山市の公共交通事情を考える

市は、公共交通再編整備計画に基づき、南那須地区全域と烏山地区の指定施設で、デマンド交通(乗合公共交通)の試験運行を10月1日に開始しました。

今月号では、この「デマンド交通」の仕組みや利用方法などを詳しく紹介します。少子高齢化が進むなかで、本市の抱える公共交通に関する課題などを一緒に考えてみましょう。

誰でもどんな目的でも利用できる

# 乗合公共の新交通システム

## ■デマンド交通とは

「デマンド交通」とは、これまでの路線バスとは違い、予約制で利用する乗合公共交通のことです。運行方法は、その地域の実情に応じてさまざま、本市では5人乗りセダン2台で運行していますが、ワゴン車を使って運行している市町村もあります。

この新たなシステムの導入に向け、交通空白地の南那須地区を中心に運行を実施しています。南那須地区内



予約センターの「きずな運営センター」では、正確・親切な受付を心掛けています。電話と連動したシステムを使い、事前に登録された電話番号からの予約であれば、利用者情報をパソコンで確認しながら、よりスムーズに受付できます。

運行の1時間前で予約を締め切り、15分以内に予約情報を大金タクシーにFAX。大金タクシーでは、その予約情報をもとに効率的な運行ルートを決め、利用者宅や施設などを回ります。

■予約センター ☎0287-82-8252

であれば、自宅から希望する施設・病院・商店・個人宅等まで、ドア・ツー・ドアで利用できます。烏山地区では、市役所烏山庁舎と那須南病院の2か所で乗降が可能です。料金は、距離に関係なく片道300円(障がい者・小学生は150円、未就学児は無料)。市が委託した「大金タクシー」が運行します。運行時間は、平日の午前7時30分から午後4時30分まで(最終便は午後3時30分発)。概ね1時間で1便とし、1日9便を運行しています。試験期間は、来年の3月31日まで。その間に、

## デマンドQ&A

Q. 子どもだけで利用できるの？

A. 小学生の場合は、保護者からの予約があれば利用できます。中学生以上は、本人の予約でも利用できます。

利用者のご意見や運行状況をもとに、本格運行に向けた方針を決める予定です。

## ■事前登録と予約が必要

デマンド交通は、誰でも、どんな目的でも利用できます。ただし、利用するためには、事前の登録と、予約が必要です。まず、市役所や予約センター、運行事業者の窓口にある登録申込用紙に記入して各窓口へ提出してください。提出2日後には、予約可能になります。利用の際は、乗車希望の2週間前から当日の1時間前まで(午前7時30分発の第1便・8時30分発の第2便は前日まで)に予約センター(☎0287



大金タクシー小堀健順さんが安全宣言。

18218252)で、電話予約をしてください。予約センターの受付時間は、午前8時から午後5時までとなります。

## ■現在の登録・利用状況

運行開始から3週間が経過した10月22日現在、登録者数は370人(南那須地区363人、烏山地区6人、市外1人)です。利用者は、延べ1233人で、すべて南那須地区在住者。平均すると1日当たり8.2人、1便当たり0.9人という状況です。さらに詳しく見てみると、平日の15日間で、13

5便中、予約が入り実際に運行したのは70便、そのうち1人での乗車が38便でした。日に日にリピーターが増え、利用は増加傾向にあります。まだまだ余裕があり、今後の利用増加を期待されます。

## ■半年の運行で844万円

今回の試験運行に係る経費は、10月から来年3月までの半年間で、運

行業務に518万4千円、利用者登録・予約受付業務等に325万5千円の計843万9千円です。このうち、国の「地域公共交通確保維持改善事業補助金」は165万円。1回300円の料金は、全額運行事業者の収入となります。

なお、国の補助金は、市の「生活交通ネットワーク計画」に基づく事業の必要性が認められた場合に対象となります。バス路線が複数ある地域などでは、事業の必要性が認められず、補助を受けられない場合もあります。市では、財政面にも配慮し有利な補助制度を活用しながら、利用者のニーズに合った公共交通の整備を進めていきます。

## ■安全運行を祈願し出発式

運行初日の10月1日、運行事業者の大金タクシー前で「デマンド交通

出発式」が開催され、市や議会、運行事業者、予約センターなどの関係者が出席しました。

式では、大谷範雄市長が「高齢者の足確保は、市政の重要課題。高齢者の行動を拡大するために、多くの人に利用してほしい」とあいさつ。事業者を代表し、大金タクシーの小堀健順さんが「安心で安全な運行に努める」と宣言しました。

関係者が見守る中、「デマンド交通」と表示された車両は、1人の乗客を乗せ、午前7時30分に同所を出発しました。乗客第1号となった篠田仁子さん（大金）は、「車の免許がないのでとても助かる。これからも利用していきたい」と話していました。

試験運行が始まり、予約受付センターのきずな運営センターでは、「登録や受付など順調に進んでいる。1時間前までの予約」と「多少の待ち時間がある」といった特徴を理解して、



乗客第1号の篠田さん。

上手に利用してほしい」と話していました。運行事業者の大金タクシーでは、「無事、運行が開始できた。利用者から、もっと遅い時間にも利用したい、烏山地区で那須南病院以外の通院にも利用したい、などの声を聞く。制度の問い合わせも多い」と話し、制度のPRにも力を入れています。

# 公共交通再編整備計画では

## ■計画的な公共交通の整備

市では、「那須烏山市公共交通再編整備計画」を策定し、計画的に交通環境の整備を進めています。この計画は、鉄道や市営バス、スクールバス、

福祉バス等の各種交通機関を、将来的に持続可能な仕組みに再編するとともに、ほかの計画と連携し、市街地環境の充実なども目指していくものです。短期的に取り組む一次再編計画と、その結果をふまえて見直しをす

る二次再編計画で構成されています。これらの計画策定や、市内公共交通に関する事項を検討する際、重要な役割を担うのが、交通関係者や有識者などにより組織される「市地域公共交通会議」です。新たな取り組み

を行う場合などは、この会議で検討し方向性を決定します。

## ■市営バスの現状

現在、市では、スクールバスや南那

## デマンドQ&A

### Q. 買い物でも利用できるの？

A. 利用目的は自由です。買い物はもちろんのこと、趣味の活動や、友人宅に遊びに行くなど、どんな目的でも利用できます。

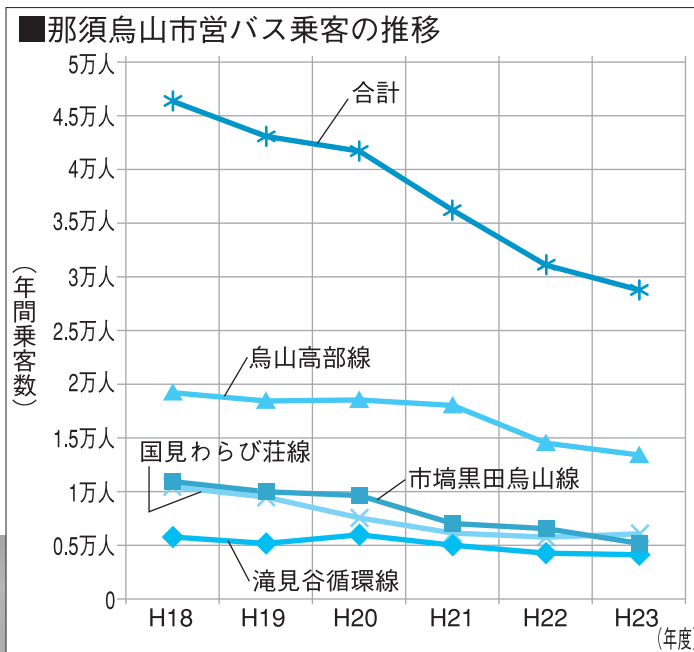
須地区を運行する福祉バスのほか、市営バスとして、

- ・ 国見わらび荘線（昭和63年5月1日運行開始、単独運行）
- ・ 滝見谷循環線（平成3年5月1日運行開始、単独運行）
- ・ 烏山高部線（平成7年12月1日運行開始、常陸大宮市と共同運行）
- ・ 市塙黒田烏山線（平成8年10月1日運行開始、市貝町・茂木町と共同運行）

の4路線を運行しています。さらに、本市が運行経費の一部を負担し、さくら市が運行する烏山片岡線、同じく那珂川町が運行する馬頭烏山線が

市内を走っています。JRバス関東の常野線廃止後は、烏山駅発着の路線バスは、全て公営となっています。

これらの市営バスは、民間事業者が赤字のため廃止した路線を、地元自治体が引き継いで運行しているものです。もともと採算の取れない路線のため、市営となつても赤字が続いています。乗客数は、その後も減少傾向



利便性向上に向けルート・時間等を検討中の市営バス。



### ■ 収支と乗客数

にあるため、運賃収入が減り、市の財政負担がさらに増えつつあります。

バス運行の経費は、基本的には運賃収入で賄います。赤字が発生した場合は、市の税金で補てんします。

平成23年度の決算状況を見てみる

と、市営バス4路線は、いずれも赤字となっています。その額は、国見わらび荘線で412万円、滝見谷循環線で334万円、烏山高部線で487万円、市塙黒田烏山線で520万円、合計で1755万円でした。赤字額を1年間の延べ乗客数で割ると、1人1回当たり610円を市で負担したことになります。なお、この4路線に対

■那須烏山市営バス路線別収支・乗客数（H23年度）

（単位：円・人）

路線名	経常収益	経常経費	損益	乗客数	1人当たり
国見わらび荘線	2,596,000	6,723,000	△4,127,000	4,123	△1,001
滝見谷循環線	3,707,000	7,055,000	△3,348,000	6,064	△552
烏山高部線	3,099,000	7,970,000	△4,871,000	13,410	△363
市塙黒田烏山線	1,872,000	7,076,000	△5,204,000	5,180	△1,005
合計	11,274,000	28,824,000	△17,550,000	28,777	△610

する県の補助金は、817万円でした。乗客数は、4路線の合計で、平成18年度の4万6342人から、23年度には2万8777人と、5年間で1万7565人（38.0%）減少しています。どの路線も、大幅な減少が見られ、日中の便はガラガラといった状況で

す。8月の利用実績では、市塙黒田烏山線を例にしてみると、1日10便、1か月で310便中、「乗客ゼロ」が128便ありました。

公共交通は、車などを持たない「交通弱者」にとって、生活に欠かせない大切なものです。経費の面だけで議論できる問題ではありませんが、現在のニーズに合った持続可能な公共交通の仕組みを築くことが求められています。

一次再編計画では、各路線バスの運行ルート・時間・便数の見直し、PR強化などに取り組みむこととしています。さらに、国見わらび荘線や滝見谷循環線の空き時間を利用した烏山市街地循環バスの導入、「デマンド交通」の試験運行などが、計画に位置づけられています。

■鉄道の利用状況

一方、鉄道に目を向けてみると、こちらも乗客の減少傾向が見られます。JR烏山線は、本市と県都宇都宮市を結ぶ大動脈として、本地域の発展を支えてきましたが、車社会の進展、人口減少や少子化などを背景に、利用者は年々減少しています。平成元年には年間83万8千人いた乗車人員が、22年には58万4千人と、25万4千人減少しています。烏山線を運行するJR東日本では、利用者の利便性を図るため、平成22年

12月のダイヤ改正で、宇都宮駅への直通便を増加させました。また、山あげ祭を観覧するための列車やトロッコ風列車の運行、駅からハイキングなどのイベント開催等、様々な取り組みを行っています。減少傾向に歯止めをかけるのが難しい状況です。

また、今年3月には、烏山線区間などを使い、蓄電池を利用した車両の試験運行が行われました。この車両は、スピードアップや電圧区間への乗り入れにより、利便性が向上することから、早期の実用化や、本路線への導入が期待されています。

市では、駅からスムーズに乗り継ぎができる二次交通の整備（乗り継ぎがスムーズにできるバスのダイヤ調整、駅周辺の整備など）を検討し、利用者の利便を図ります。市民にとって大切な「烏山線」の存続を目指し、市民号の実施など利用促進にも取り組んでいます。市民の皆さんも、積極的な利用をお願いします。

デマンドQ&A

Q. 10分で用事が済むので、このまま帰りも乗せてくれない？

A. タクシーとは違い、乗合公共交通のため、別の便を予約してご利用ください。

■ニーズに合った公共交通

高齢者などの「交通弱者」が増える一方で、公共交通の利用が伸び悩むといった現象が発生しています。今後、市では、利用者のニーズを的確に把握し、利用しやすい公共交通を築いていくことが必要となります。

デマンド交通及び公共交通に関する、詳しくは総務課危機管理室 ☎0287-83-1111までお問い合わせください。



蓄電池を利用した車両の試験運行。

デマンド交通の試験運行開始から1か月。  
市民の声や要望を紹介します。

## 外出の機会が増えました 買い物や通院に利用しています

10月にデマンド交通が始まり、外出の機会が増えました。買い物や通院などに利用しています。

夫の定年を機に、東京から越してきました。自分では車の運転ができないため、夫が病気になる前は、外出に不便さを感じていました。

これまでは、買い物にタクシー



粕谷富美子さん  
(南大和久)

を利用。せっかく安い買い物としても、毎回、往復2千円のタクシー代は負担になります。デマンドは、1時間前までに予約が必要など不便な面もありますが、片道300円で利用できるのはとても助かります。

わかりやすい地図情報などがあれば、もっと色々な目的で利用できると思います。資料は、高齢者向けに、文字が大きく見やすいものがあると便利ですね。

車内でのコミュニケーションにもつながるので、もっと多くの人に利用して欲しいです。商店や病院へのポスター掲示、待ち時間対策のベンチ設置などしてみたいかがでしょうか。烏山地区のスーパーや医療機関へ行けると、もっと便利になると思います。

利用。せっかく安い買い物としても、毎回、往復2千円のタクシー代は負担になります。デマンドは、1時間前までに予約が必要など不便な面もありますが、片道300円で利用できるのはとても助かります。

## 電動自転車が私の足でも、 いつまで乗れるのか…

買い物や通院などの外出には、電動アシスト付自転車を使っています。こぐのは楽ですが、80歳になり、いつまで乗れるのか不安です。街なかの商店が次々と閉店してしまい、雨の日などは、ちょっととした買い物にも苦労しています。

定年後、千葉市から烏山に移り住みました。事故を心配する妻に説得され、自動車の免許は結局取りませんでした。バイクには乗っていましたが、病で倒れたのをきっかけに、乗るのをやめました。現在、妻と2人で電動自転車を愛用しています。安全を考え、道路の

佐野清治さん(野上)



佐野さんご夫妻。

すいている時間帯に出掛けるようにしています。

烏山地区には、路線バスがあるといっても、自宅からバス停までは相当の距離。買い物をした荷物を持って、バス停から自宅まで歩いて帰るのは、高齢者にとって大変なことです。烏山地区でも、自宅から目的地まで利用できる交通手段があるといいですね。市役所や駅、病院、スーパー等、市内を循環するバスなども便利だと思います。

Interview

## 市表彰式・健康講話

# 初の「市民栄誉賞」に瀧田氏



合併7周年を迎えた本市では、10月13日、烏山公民館で「平成24年度那須烏山市表彰式」を開催しました。

今年の表彰式では、市表彰条例制定後初の「市民栄誉賞」として、陶芸家の瀧田幸一さんを表彰。特別功労表彰、市政功労表彰、文化スポーツ功績賞では、それぞれの分野で活躍する9人を表彰しました。

さらに、本市に関係する書籍や、東日本大震災義援金として多額の寄付をされた4人には、感謝状を贈呈。受賞者を代表し、瀧田さんは、「今回の受賞を励みに、今後、ますます頑張っていきたい」と、謝辞を述べました。

式典終了後には、健康講話が開かれ、9人の市民が参加。講師は、宇都宮文星短期大学地域総合文化

## 市民栄誉賞

### 陶芸家 瀧田頂一（本名：幸一）さん

瀧田さんは、学生の頃から陶芸の道を志し、富本憲吉・濱田庄司氏に師事し、柔らかで釉調な白磁の世界を確立されました。

その活躍の場は、国内のみならず、海外にまで及んでおり、我が国を代表する陶芸家の一人とされ、陶芸を通じた芸術文化の振興に長年にわたり尽力されています。昭和34年から37年まで、パキスタン美術大学陶芸家主任講師として招かれ、昭和61年から平成8年には、



■昭和2年に旧烏山町鍛冶町に生まれ。昭和24年に福島県会津本郷に築窯。59年に現在の俱門窯に移窯。

沖縄県立芸術大学教授を務められました。平成10年に栃木県文化功労賞を受賞。現在も熱心に作陶活動に取り組まれています。

学科の大津智仁氏です。内容は、「食事や運動、休養からの健康づくり」をテーマに、ストレッチなどの実技を交えながら、健康寿命を延ばす秘けつなどを分かりやすく解説したものです。参加者は、日頃の生活を通じた身近な健康づくりに、興味津々でした。

なお、受賞者は次のとおりです。

（敬称略）

《市民栄誉賞》

瀧田幸一（陶芸家）

《特別功労表彰》

高田悦男（市議会議員）

《市政功労表彰》

塩野目省三（情報公開及び個人情報保護審査会委員、井上一（行政区長）、

平野善孝（同）、池田忠市（消防団本部

役員）、佐藤忠正（廃棄物監視員、國井

昭（同）、川俣仲（結婚推進委員）

《文化スポーツ功績賞》

高橋直也（高校サッカー）

《感謝状贈呈》

森戸一男（書籍の寄付）、埼玉県和

光市長松本武洋（多額の寄付）、東本

願寺真宗大谷派教務所（同）、（株）烏

山城カントリークラブ（同）

## 平成24年度 那須烏山市体育協会表彰

市体育協会（山田廣明会長）では、各種スポーツの普及に尽力された次の方々を表彰しました。（敬称略）

【体育功労賞】▷ 瀬尾勝好（金井）▷ 栗田和行（熊田）

【体育奨励賞】▷ 阿久津光一（下境）▷ 相田日出男（金井）▷ 大野孝夫（田野倉）

【優秀監督】▷ 大鐘和行（落合）

【優秀選手】▷ 佐藤清志（大沢）▷ 五味洵忠也（大沢）▷ 齋藤國夫（大沢）▷ 大貫日雄（大沢）▷ 五味洵八重子（大沢）▷ 大貫美佐子（大沢）▷ 大鐘和行（落合）▷ 大鐘幸子（落合）▷ 森島光一郎（落合）



大津氏を招き健康講話。



## 自律型ロボット大会

# 熊田共紘君が国際大会出場

熊田の熊田共紘君(宇工高1年)が所属する、宇都宮工業高校生産システム研究部チームが、9月23日に東京で開かれた自律型ロボット競技の全国大会「WRO Japan 2012 決勝大会」高校生自由部門で優秀賞に輝き、国際大会への出場権を獲得しました。

同チームは、事前に与えられたテーマ「社会の一員としてのロボット」に沿って製作した、血圧や心拍数を計る「医工連携ロボット」で最高賞を受賞。11月9日から11日まで、マレーシアで開かれている国際大会に出場しています。熊田君は、「国



熊田君(右)が所属するチームの皆さん。

際大会では、英語で発表するので、緊張しますが頑張ります」と話していました。

## 8020推進財団理事長賞

# 「良い歯」で大鐘きみさんが受賞

「80歳になっても20本以上自分の歯を保とう」と呼びかける8020(ハチ・マル・ニイ・マル)推進財団の理事長賞を、このほど、大鐘きみさん(落合)が受賞しました。

82歳になる大鐘さんは、25本全てが自分の歯で、しかも、虫歯が1本もありません。これまで歯医者にかかったことがなく、体も健康そのものです。

「昔は食べ物が少なく、好き嫌いなんていつていらなかった。農作業が忙しく、歯の健康に気を使えなかった」と振り返る大

「歯の痛みを知らない」という大鐘さん。



鐘さん。「丈夫な体に生まれ、親に感謝する。固いものが好きで、晩年も楽しみ」と、充実した毎日を送っているようです。

## 金井の片岡長一さん

# 祝100歳を俳句で詠む

10月12日に片岡長一さんが100歳を迎え、大谷範雄市長から祝詞と記念品が贈られました。

片岡さんは、80歳から始めた俳句が何よりの楽しみ。俳句会「こだち」に入会し、広報那須烏山にも投稿をしています。取材時にも、100歳を迎えた朝に書いた句を披露してくれました。

耳は少し遠いですが、とても元気な片岡さんは、今でも台所に立ち、夫婦で仲良く料理を作ります。好きな料理は奥さんの作る「煮物ときんぴらごぼう」とのことです

が、家族と一緒に外食に行くのも大好きだそうです。家族は、「その行動力が元気の秘訣では」と話していました。

## 11月の介護予防大会で

# 新しい寸劇を披露

県消費者リーダー連絡会那須烏山支部(萩原宣子代表)では、11月26日に開かれる介護予防大会での公演に向けて、寸劇「認知症になっても大丈夫」の練習に毎日取り組んでいます。

同支部は、平成18年から寸劇による消費者啓発活動が続けてきました。が、介護予防寸劇も新たに始めました。萩原代表は、「認知症に関する不安を取り除くため、会員一同、試行錯誤しながら練習している」と話してい

ました。

なお、同支部では、これまでの活動の功績が認められ、第37回地域県民のつどいで、功労ボランティア賞を受賞しました。



受賞した県消費者リーダー連絡会支部。



仲の良い片岡さん夫婦。

# 外国文化体験講座 フィリピンの家庭料理に挑戦

市国際交流協会、佐藤雄次郎会長では、10月28日、外国出身者と気軽に交流し親睦・交流を深めてもらおうと、「外国文化体験講座」(フィリピン編)を開き、市民や同会員30人が、フィリピンの家庭料理作りに挑戦しました。当日は、フィリピン出身で、市内在住のヒグチ ジェニファ カナベさんを講師に迎え、お祝い事のおときに作る「パンシットビーフン」など3品を調理しました。

ジェニファさんは、「日本に嫁いだけばかりの頃は、言葉や文化が分からず苦労したが、現在は、家族の愛情や周りの人たちの優しさで毎日楽しく過ごしている。今回は、フィリピンの家庭料理をぜひ、味わってください」とあいさつ。調理終了後の会食では、参加者の自己紹介や講師への質問など、交流を深めました。

なお、同協会では、12月13日の夜、風月カントリー倶楽部で、市民や市内の外国出身者を対象に「メリークリスマス会」を開催します。内容はビンゴゲーム、クリスマスソング、プレゼント交換等です。11月下旬に参加者を募集しますので、詳しくは事務局の生涯学習課(☎0287-8816223)までお問い合わせください。



料理を通じて異文化に触れる。

## 第3分団と女性第1部

### 合同で中継訓練

市消防団第3分団と女性第1部による合同中継訓練が、9月30日に行われ、団員90人が参加しました。

当日は、小木須地内で林野火災が発生したと想定し、8台の消防ポンプを中継して放水。団員は、車両ごとに配置された消防署員の指



中継訓練に取り組む団員。

導のもと、消防ポンプの圧力計の見方や、スロットル操作などを学びました。

訓練に参加した団員は、「山林に囲まれたこの地域では、非常に重要な訓練であり、今後も継続して実施していきたい」と話していました。

## 小学校用反射タスキ寄贈

那須烏山交通安全協会(篠崎昌久会長)では、10月12日、教育委員会に反射タスキ150本を贈りました。

当日は、烏山庁舎を訪れた篠崎会長が、「子どもたちの事故防止に役立ててください」と、大谷範雄市長と岡清隆教育次長に反射タスキを手渡しました。このタスキは、各小学校に配られ、薄暮の事故防止などに活用されます。



反射タスキを手渡す篠崎会長(右)。

## 全国地域安全運動 街頭で 広報活動

10月11日から20日までの10日間、全国地域安全運動が実施され、那須烏山警察署では、運動初日の11日、市内スーパー店頭で広報活動を実施しました。

当日は、稲毛康二那須烏山警察署長が、「安心で過ごしやすいまちづくりを目指す」とあいさつ。防犯協会、少年指導委員会、各種ボランティア団体などのメンバーが、本運動を周知するチラシなどを買った物客に配り、安全な地域づくりへの協力を呼び掛けました。



地域安全運動をPR。

# 総合型地域スポーツクラブ設立を目指しフォーラム

市では、9月29日、総合型地域スポーツクラブの設立を目指し、「スポーツフォーラム」を烏山公民館で開き、約70人が参加しました。

総合型地域スポーツクラブとは、子どもから高齢者まで、様々なスポーツを愛好する人々が、それぞれのレベルに合わせて参加できる新しいタイプのクラブのこと。運営は、地域住民が自主的、主体的に行うものです。ス

ポーツ活動の活性化や多世代交流、高齢者の生きがいづくりなど、多くの効果が期待され、本日も設立に向けた環境整備を進めているところです。

当日は、大妻女子大学の平野泰宏准教授を講師に迎え、「これからの地域スポーツの在り方を考える」と題した講演が行われました。平野准教授は、クラブの役割や必要性などを、熱心に解説しました。



平野准教授による講演。

協力関係を確認し協定を締結。



## メガソーラーの基本協定を締結

七合中学校跡地に大規模太陽光発電所（メガソーラー）を誘致する市は、10月10日、設置事業者である東京太陽光建材（株）と事業推進に向けた基本協定を締結しました。

同社によると、地上斜傾型の両面型太陽電池発電所は世界初。発電量は、当初計画より110kW増の840kWに拡大し、裏面の発電を加えると実質1メガWになります。

地面に敷く反射材は、安価で効率の良いものを検討中。総事業費は2億8千万円、来年1月に着工し、3月の発電開始を目指します。

調印式で大谷範雄市長は、「地域活性化への貢献も期待する」とあいさつ。仁村利尚社長は、「市のシンボルとして、また、七合中卒業生の誇りになるよう全力で取り組み」と、協力関係を確認しました。

## 市の工事請負等契約

（前月20日までの入札結果、単位は千円、130万円以上）

事業名	箇所	業者名	金額	工期
野上下境線道路整備工事その1	野上	渡邊建設(株)	27,510	10/10～2/28
田野倉曲畑線道路整備工事その1	曲畑	荒井工業(株)	27,300	10/10～3/8
田野倉曲畑線道路整備工事その2	曲畑	(株)中山建設	29,400	10/5～3/8
公共下水道管渠築造工事 第1工区	南1丁目 他	(株)野村建設	19,740	10/17～2/1
公共下水道管渠築造工事 第2工区	南1丁目	山田建設(株)	8,505	10/18～1/6
つくし幼稚園空調設備新設工事	東原	大輪電設工業(株)	18,690	10/4～12/27
大桶小志烏境線道路整備工事その1	大桶	(株)平野建設	34,125	10/17～2/28
大桶小志烏境線道路整備工事その2	大桶	(株)関谷建設	31,500	10/18～2/28
上川井下川井線道路排水施設整備工事その1	上川井	(有)板橋建設	3,045	10/16～12/14

入札等に関するお問い合わせは、総務課管財係 ☎0287-83-1111 まで。

「とっておき！那須烏山」

# 大宮駅で本市の魅力を紹介

CRTとちぎ放送と市が、10月26日、JR大宮駅西口イベント広場で「とっておき！那須烏山 大宮イベント」を開き、那須烏山市の魅力を紹介しました。

当日は、八溝そば街道推進協議会によるそば打ち実演のほか、烏山和紙の紙すき体験、特殊絵の具によるデインブルアート体験などが行われ、来場者に、本市の特産品などを紹介しました。ほかにも観光協会や農協、漁協、観光関連事業者などが出展。ステージでの輪投げやじゃんけん大会、サイコロゲームなどの催しも人気でした。会場では、元田町お囃子保存会

の演奏が響きわたり、山あげ祭で実際に使われた「山」や「ガマ」を展示。水槽でアユの展示も行い、当地域の農水産物等の安全性を来場者

に訴えました。なお、イベントの様子は、CRTとちぎ放送で中継されました。



にぎわう会場。



デインブルアート体験も人気。



多くの人が紙すきを体験。

山田組会長(左)が新米を手渡す。



試食会で味を確認。



多くの人でにぎわう交流戦。

## 「食と農フェア」でそば交流戦

県が主催する「とちぎ食と農ふれあいフェア2012」が、10月20日・21日の2日間、県庁を主会場に開かれ、「そば東西交流戦」で、那須烏山市の所属する東軍が、勝利しました。  
初企画の「そば交流戦」は、鬼怒川を境に東西チームに分かれ、来場者の投票で競うもの。東軍は、那須烏山市、那須町、那珂川町、益子町の4店舗でした。  
なお、17日には、生産者やそば店による試食会が市内で開かれ、関係者が、新そばの味を確かめ、交流戦に臨みました。

## 仮設住宅入居者に新米贈呈

JAなす南(山田清代表理事組合長)では、10月15日、仮設住宅入居者に新米205キロを贈りました。

B&G海洋センターで開かれた

贈呈式では、山田組会長が、「おいしいお米で元気になってください」と、地元でとれたコシヒカリを、入居者代表の曾根原勉さんに手渡しました。那須烏山市チーム龍JIN(小堀道和キャプテン)の呼び掛

けで、荒川小学校5年の児童4人も式に参加。入居者に元気になつてもらおうと、作文や絵を贈り、歌を披露しました。

現在、仮設住宅には、13世帯が入居しています。曾根原会長は、「各家庭の事情が異なりスピードも違うが、生活再建に向け今後頑張っていきたい」とお礼を述べました。